

田原市 地域コミュニティ連合会



会報第6号
2014.1.15

「田原市地域コミュニティ連合会」は、地域コミュニティによる“自主的なまちづくり”を目指し、地域活動活性化のための調査・研究、定例理事会などでの意見交換、交流スポーツ大会の開催、市への要望活動などを行っています。市内全20校区のコミュニティ協議会長が所属しています。（平成23年度発足）

* * * * 平成25年度の連合会活動方針 * * * *

目標とする地域社会	誰もが暮らしやすい社会
活動の目標	みんなが参加し、互いに尊重・助け合う地域づくりの場
推進項目	①コミュニティ活動の目的・目標をみんなで共有しましょう。 ②一人ひとりが出来ることから取り組む全員参加のまちづくりを進めましょう。 ③情報交換や交流イベント等により連携意識を高め、人づくりを進めましょう。

■ 校区交流スポーツ大会で地域間の親睦！

平成25年6月15日(土)／渥美運動公園屋内競技場／全20校区463名参加

この大会は、地域のスポーツ振興と、校区内や校区間の交流・連帯感の向上をめざして開催しているもので、今回で2回目となります。

今年度は、「玉入れ」「フライングディスクゴルフ」の2種目で心地よい汗を流しました。両競技とも1チーム10名（うち2名以上女性）で構成し、4つのブロックに分かれて予選リーグを行い、各ブロック1位の校区が、決勝トーナメントで順位を争いました。

選手編成には各地域の個性があふれ、交流が目的の大会とはいえ、いざ試合が始まるとどの試合も白熱し、会場は笑顔と歓声に包まれていました。

異なる地域の名前や顔も知らない方同士が交流できる、良い機会となりました。



●準備運動。大会にはスポーツ推進委員の協力をいただきました。



●フライングディスクゴルフの様子

■ 校区交流スポーツ大会結果

玉入れ	
優 勝	泉校区コミュニティ協議会
準優勝	大草コミュニティ協議会
第3位	若戸校区コミュニティ協議会 和地校区コミュニティ協議会
フライングディスクゴルフ	
優 勝	和地校区コミュニティ協議会
準優勝	赤羽根校区コミュニティ協議会
第3位	大草コミュニティ協議会 若戸校区コミュニティ協議会

■「協働まちづくり」を研修会で学ぶ！

平成25年5月29日（水）／童浦市民館／連合会理事19名出席



鈴木教授のご紹介

「仮称）田原市まちづくり推進条例検討会」会長（H19）を皮切りに、以後、田原市のコミュニティや行政の会議に要職として多数参加。地域産業政策やコミュニティ政策に造詣が深い。愛知大学地域政策学部教授・地域政策学センター長

「協働」を語りたくなる時代

◇講師：愛知大学地域政策学部 鈴木誠 教授



連合会理事が、コミュニティ活動の基本となる協働まちづくりや田原市総合計画について学ぶ機会として、研修会を開催しました。

講師には、連合会の専門委員会「田原市地域コミュニティ活性化研究会」のオブザーバーである、愛知大学地域政策学部の鈴木誠教授をお招きし、協働施策や地域コミュニティへの期待、地域コミュニティ活性化に向けて、事例を交えながらお話ししていただきました。ここでは、講話の要旨をご紹介します。

●「新たな公共」～協働が語られる時代背景～

◇行政職員の削減と民間委託化によって民間が公共を担う時代から、公共サービスを減らすのではなく、**サービスの担い手を何層も作ること**で、様々なニーズを持つ住民の生活満足度を日常から満たす時代へと変化してきました。

●協働は、新たな公共の形

◇「協働」とは、一人ひとりではできないこと、それぞれの組織ではできないことを話し合い、協力し合うことで、**実現していくこと**だと考えます。
◇住民の生活満足度を高めるために、行政以外の各種団体の協力で、公共サービスや新しい地方公共団体を作っていく時代といえます。

●地域コミュニティに期待されるもの

◇制度ができても、それを担う**公共的な人材**が育たなければ、最大限の住民の満足度をコミュニティの中で維持するのは難しい。まずは、**身近なところで声かけの輪を広げていく**ことが大事であり、**そこから、目的ある活動へ移行していく**ことが必要です。

◇仕事主体の世代、子育て世代では、地域活動への参加が難しいと思います。こうした人たちにも地域との関わりを持てるよう、**活動に「面白い」と感じられる「余白」を作ることが大事**だと考えます。

◇みんなで語り合い、共に行動しながら人々の希望を叶えるプロセスが「協働」であり、コミュニティづくりです。

●地域コミュニティ活性化に向けて

◇「協働」には、ご近所での協働、自治会・校区協議会での協働、行政との協働など、さまざまあり、**住民が自分の暮らしの中で、地域に対して希望を持つて、関わりを持っていく**ことが、これから大事なのではないかと思います。

◇**女性が参加しやすい自治会運営や団体活動**で、地域活動が盛り上がるよう応援、工夫していくかなくてはいけないと思います。

◇また、若い世代は、グローバル化により地域が疲弊している姿をみて、**「何とかしたい」「地域に関わりたい**」と思っています。ぜひ、**若者たちが次の時代を築いていく、ヒント・チャンス**を地域で与えてほしいと思います。



●あらゆる世代の参加が期待される地域コミュニティ活動



●研修会風景



■「地域の助け合い活動」を視察研修で学ぶ！

7月9日（火）／本荘地区自治会連合会（岐阜県岐阜市）

7月10日（水）／高山市社会福祉協議会・片野町敬神会（岐阜県高山市）

地域コミュニティ団体の運営や実践活動の参考とするため、今年度は「地域の助け合い活動」について先進地視察を行い、理事19名が参加しました。

① 本荘地区自治会連合会

《対応》

自治会連合会長・副会長、民生委員、行政職員など約15名

《地域の概況》

◇102自治会／11,592人／4,920世帯（H25.6）

◇自治会加入率69.4%（岐阜市全体65.8%）

◇高齢化率27.92%（H25.7）

《活動の状況》

◇高齢者の孤独死や死亡事故の身元確認に手間取ったことなどをきっかけに、日ごろの見守り活動に力を入れる。

◇喫茶店など身近なエリアで高齢者サロンを開設。（5か所）

◇高齢者の救急医療情報を保管する「命のバトン」の取り組みを実施。

◇地域の広報紙「スマイル新聞」を10年前から発行し、行事の告知と結果を必ず掲載するようにした。



●ユニークなサロン形式（スタジオ使用）での視察受入【本荘地区】

② 高山市社会福祉協議会・敬神会

《対応》

社会福祉協議会長・職員、片野町敬神会会長

《地域の概況》

◇片野町内会／3,105人／1,213世帯（H25.4）

◇自治会加入率71%（加入世帯858）

◇敬神会（祭組織）加入世帯616（自治会加入世帯の72%）

《神社祭礼による地域活性化》

◇高齢者が子どもに踊りを教える形で、「神楽舞」を50年ぶりに復活させ、地域の世代間交流、絆が深まった。

《社会福祉協議会の助け合い活動》

◇冬季ファミリーホーム「のくとい館」を運営し、高齢者の冬季の閉じこもり予防対策を実施。

◇公民館のない地域における高齢者の行き場づくりとして、空き店舗活用事業「よって館」を設置。（H19～）



●井上いほり連合会長。女性ならではのアイデアが地域活動に活かされている【本荘地区】



●西永由典社協会長から説明を受ける連合会理事【高山市】

参加理事の意見（抜粋）

●組織を運営している人たちの横のつながり、「絆」の強さがある。この「絆」こそ、今最も求められている「地域の力」だと感じた。

●各世代が交流する神社祭礼は、校区民の絆を深めるために最適な良策と感じた。

●男性のサークル活動の掘り起しが、一つの課題と思う。

■ 地域コミュニティ支援の提案書を市長へ！

平成25年9月30日（月）／田原市役所／連合会正副会長出席

田 原市市民協働まちづくり条例で、まちづくりの基礎的団体と位置付けられている地域コミュニティ団体への支援を求める提案書を、田原市長へ提出しました。

内容は、**学校再編に関連する諸課題や公共施設のあり方検討への地域意見の反映**を盛り込んでいます。また、昨年度提出した提案の継続対応のほか、「田原市地域コミュニティ活性化研究会」の調査・研究結果から、地域団体の活性化や女性参加促進の支援も要望しました。



●提案説明する山本連合会長と彦坂・太田副会長（正面左から）

■ 「防災研修会」で避難所開設のシミュレーション！

平成25年9月30日（月）／市役所防災センター／校区会長・自治会長・役員等97名参加



●避難者の状況に応じて配置を工夫する参加者たち

万 一の大災害に備え、地域の避難所運営をみんなで実践的に考える試みとして、カードゲームで避難所の開設を擬似体験する研修会を開催しました。

研修は、『避難所運営ゲーム（HUG：ハグ）』と呼ばれる形式で行いました。これは、避難者の家族構成や心身の状況などが記されたカードを、避難所に見立てた模造紙に、適切な配置を考えながら次々と並べていくもので、「上手くいかない体験」をするものです。

参加者からは、「実際にもっと考えなければいけないと感じた。いい経験になった」等の感想をいただきました。

■ 関市自治連合会視察受入れ

平成25年7月31日（水）

岐 阜県関市の自治連合会役員20名が、田原市の地域主体のまちづくりや実際の取り組み状況を学ぶため、視察研修に訪れました。

連合会を代表して、**童浦校区コミュニティ協議会**が視察を受け、事例を紹介しました。



●校区協議会の取り組み状況を紹介する鈴木童浦校区会長
【浦区ふれあいホール】

■ その他主な事業経過

定期総会・地区行政連絡会	4月12日
定期理事会	毎月
会報発行	6月15日／1月15日
地域コミュニティ活性化研究会 「学校再編にかかるコミュニティ・校区制のあり方」等を研究	10月1日設置 ※H25-26年度
ホームページ更新	随時
市審議会等への委員参加	43会議体
地域懇談会	随時

●連合会ホームページをご覧ください！

◆ <http://tahara-komiren.com/>

田原市地域コミュニティ連合会



【会報第6号】平成26年1月15日発行：田原市地域コミュニティ連合会事務局（田原市役所市民協働課内）
メール：tahara-komiren@city.tahara.aichi.jp 電話：0531-23-3504